

●巻頭インタビュー

宮城県在住外国人 それぞれの3.11 東日本大震災を振り返る

東日本大震災から2か月以上が経ちました。私たちMIAはこの間、被災地に赴き、また相談電話にて多くの被災外国人からお話を伺い、各種支援を行ってきました(詳細は@MIA欄にて報告します)。

今号の倶楽部MIA巻頭インタビューでは、そうした場で聞いた話の中からピックアップし、宮城県内に住む外国人の視点から今回の震災を振り返ってみました。

3月11日(金)震災当日、MIAの研修室(仙台市青葉区堤通雨宮町)で「外国籍の子どもサポーター研修会」を受講していたのは、南三陸町在住の佐藤金枝(台湾出身)さん。「研修会はそのまま中止となり、一緒に研修に参加していた数名と帰宅を試みましたが、石巻まで4時間かかり、登米市津山町で警察に通行止めを告げられたのはすでに深夜のことでした。夫とはメールで生存の確認だけは取れていましたが、あとは全くの音信不通。道の駅で不安な一夜を過ごし、翌朝同施設のスタッフから朝食の提供を受けた後に南三陸を目指しました。国道45号線が通行止めのため、地元の方から道を聞きながら山道のような細い道を通り、何とか南三陸町入谷小学校まで辿り着きました。津波で志津川の自宅は流されてしまったので、それ以上動くことをあきらめ夫や家族の情報を人づてに收拾しましたが、再会までさらに二日かかりました。家は失いましたが、幸い家族は無事でした。情報がなくなることがこんなに不安だとは思いませんでした。MIAの研修に来ていなかったらたぶん自宅にいたと思うのですが、どうなっていたかと想像すると…怖いですね。」

当協会のタガログ語相談員庄司マリーンさん(フィリピン出身)は、仙台市宮城野区蒲生の自宅を津波で失いました(「家よりも息子の小さい時の写真を流されてしまったのが残念です」)が、悲しむ間もなく県内在住のフィリピン人やフィリピン大使館、さらにはフィリピンのマスコミから個人の携帯電話に大量の電話が舞い込み、相談の対応に追われました。「3月16日ぐらいから電話が殺到しました。家族、親戚、知人、友人などの安否確認、原発の問題、帰国についての相談がほとんどでした。私の家族や知人からも放射能の影響を心配して帰国を勧める電話がたくさん来ましたが、夫も息子もいるので帰国しようとは思いませんでした。わたしを頼って電話をしてくるフィリピン人もたくさんいるので、ほかのフィリピン人にまで不安を与えることにも思いました。しばらく経つと、夫を津波で亡くした方や家を失い避難所に長く暮らす方などからの深刻な相談がいくつもありました。行政や各種団体の支援情報を調べてお伝えすることとともに、寄り添い勇気づけるようなことを心がけました。」



佐藤金枝さん、入谷小学校の避難所前で(写真中央)



右から松原アンドレアさん、庄司マリーンさん、小関一絵さん。震災についてマスコミからの取材中



佐々木アメリカさん、
ベイサイドアリーナでのボランティア中に。



齋藤慧さん、当協会にて相談対応中。

宮城県在住外国人それぞれの3.11 東日本大震災を振り返る

南三陸町の佐々木アメリカさん(フィリピン出身)は、地震が発生した時は同町内の小学校で外国籍の子どものサポート活動をしていました。「すぐに帰宅をしようと車を走らせましたが、ふと思うところがあっていつも通る海沿いの道ではなく、山手の道を走りました。それが結果的に幸いして津波に遭わずに済みました。地震から4日目に夫とようやく再会できました。自宅兼店舗は志津川の街の中にあり、基礎しか残っていませんでした。仕事もできなくなりましたが、何か役に立てることをしたいと思って同町総合体育館『バイサイドアリーナ』の避難所で通訳をしたり、支援物資の搬出入を手伝ったりボランティア活動をしてきました。また、南三陸町や近隣に住むフィリピン人の支援も少しずつ行ってきました。家族を失った人、家を失った人、仕事を失った人…みんな深刻です。亡くなったフィリピン人もいます。そう思えば、私は幸せです。がんばりますよ!」

当協会ポルトガル語相談員の松原アンドレアさん(ブラジル出身)はブラジル大使館から帰国を勧められるなどしましたが、日本に残り在住外国人の支援をしてきました。「ブラジル大使館やブラジルのマスコミ、それに日本国内在住のブラジル人からもたくさん電話がありました。ブラジルのテレビニュースからもインタビューを受け、放送されました。ブラジルでもかなり過剰な放送がされ、日本語があまり分からない日本在住のブラジル人は相当不安になったようです。少し落ち着いた3月末ぐらいからは関東や東海地域に住むブラジル人が支援物資を持って宮城に来るような

り、そのアレンジや同行して案内などもいくつか行いました。ブラジル人は困っている人を助けたいという気持ちがより強いかもしれませぬね。」

当協会外国人支援通訳サポーター(中国語)の小関一絵さん(中国出身)は中国大使館からの依頼で中国人の帰国を手伝うボランティア活動に従事されました。「震災直後、帰国を希望する中国人のために成田空港や新潟空港までの交通手段の確保が必要となり、中国大使館からの依頼で大型バスの手配をしました。3月15日から18日までの間に数多くのバスを見送りました。留学生、研修生、日本人と結婚している配偶者の方、日本で仕事している方など。中国でも地震や原発のニュースがかなり大きく取り上げられていましたので、中国国内の家族も相当心配されたようです。」

山元町在住の齋藤慧さん(韓国出身、当協会ハングル相談員)は、幸い自宅や家族も津波の被害を受けませんでしたが、交通が遮断されしばらくの間自宅待機を余儀なくされました。その後、福島原発の事故を受け、韓国にいる家族や友人から毎日何件も電話を受けるようになりました。「夫も姑もいるので韓国に帰るつもりは全然ありませんでした。最初情報が少なかったころは放射能がちょっと怖いと思うこともありましたが、日本政府の発表を信じていますし。韓国の報道はかなり過激みたいで。それで、母親や友人が心配してなかなかこちらの言うことを信じてくれないので、4月末に一時帰国してきました。」

上記のみなさんは被災者でありながら、私たちにもさまざまな形で協力をしていただきました。今回の東日本大震災で改めてはっきりしたのは、地域のキーパーソンがいないと宮城県内に暮らす外国人のサポートはほとんどできないという事実です。みなさんのご協力にこの場を借りてお礼申し上げますとともに改めて心よりお見舞い申し上げます。

サポーターの声

災害時通訳ボランティア

震災後、避難所では各種支援が行われていますが、その一つに入浴(シャワー)のサービスがあります。いくつかの避難所には米軍のシャワーサービスが設置、運営されており、4月中に9人の通訳ボランティアを派遣しました。派遣先は、石巻市の鹿妻小学校、東松島市の大塩市民センター、小野市民センターの3か所です。米軍と利用者または避難所管理者とのコミュニケーション通訳のほか、シャワー利用に関する表示シートの作成、さらには避難所の子どもと米兵の国際交流の橋渡しなどを行っていただきました。

「目的地までの道のりがいまだ津波の傷跡深く、思っていた以上に時間がかかりました(伊東仁さん)」「米兵との交流のお手伝いをし、つかの間の笑顔が見られてよかった(宝示戸睦夫さん)」「(4/18でしたが)想像以上に寒かったです(三神徹さん)」「ほんの半日ほどの活動でしたが、何かしらのお役にたてていたとすれば幸いです(平美紀さん)」

ご協力いただきましたみなさん、本当にありがとうございました。



▲MIA作成の指差しシートを現場で利用していただきました。

お知らせ

倶楽部MIAの最新号およびバックナンバーはMIAのHPでもご覧いただくことができます。
URL:<http://www.h5.dion.ne.jp/~mia/publication/publication.html#clubmia>

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2011年6月～7月の活動予定をご紹介します。

※震災の影響でイベントの日程変更や開催中止が考えられますので、主催者との確認をお願いします。

MIAイベントカレンダー

2011	6	S	M	T	W	T	F	S	7	S	M	T	W	T	F	S	
	6				1	2	3	4								1	2
		5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9	
		12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	
		19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23	
		26	27	28	29	30				24/31	25	26	27	28	29	30	

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話

FAX

Eメール

HP: ホームページ

6月 JUNE

5月31日～6月12日

～想いのかたちプロジェクト～

街喫茶をりsenbi展

NPO法人黒川こころの応援団

GallerySenbi

仙台市青葉区春日町(仙台美術研究所2F)

11:00～18:30(最終日16:00まで、6月6日休廊)

無料

022-347-0028

info@m-kissa.com

http://m-kissa.com

6・7月 毎週金曜

国際語エスペラント講座 塩釜教室

仙台エスペラント会

塩釜市港町2-3-11 ビルドスペース

12:30～13:30

電話・FAX・Eメール

初回無料、継続はテキスト代等要

080-3198-4818(ビルドスペース)

FAX 022-389-1620

esperanto@goo.jp

http://www.birdoflugas.com

15日

申請取次行政書士による外国人のための入管

手続無料相談会

宮城県行政書士会

仙台市青葉区役所4階市民相談室

13:00～16:00

電話受け付けします。予約なしでもOK。

無料

022-261-6768

FAX 022-276-2258

16日

中東・アフリカの地殻変動

～世界はどう変化しつつあるのか

アフリカ・セミナーの会

仙台国際センター研修室

10:00～12:00

不要

700円

FAX 022-362-7907

19日

健康的に歩いて巡る歴史散策～仙台三十三観音

堂めぐり～第3行程第26番札所～第33番札所

NPO法人楽遊ネットワーク宮城

集合場所:①JR南仙台駅前1番バス乗り場

前(8:00集合) ②第31番札所「落合観音堂

(四郎丸)内※参加申込の方には詳しい集合

場所のハガキを郵送します。

集合:8:45 出発9:00～解散15:00頃予定

電話・FAX・Eメール

一般2,500円 会員2,000円(小冊子・保険

料込)

022-261-9869

FAX 022-261-0546

eikaiwa.usaclub@dream.ocn.ne.jp

http://www.eikaiwa-usaclub.jp/rakuy

uusub.htm

7月 JULY

2日

日本・ネパール「絆いっぱいぽ」

七夕会

仙台国際センター

13:00～15:00

電話申し込み(6/5まで)

無料

FAX 022-241-8297(桜井)

20日

申請取次行政書士による外国人のための入管

手続無料相談会

宮城県行政書士会

※6月15日と同じ

21日

平和以外に何でもあるコンゴ

～世界最悪の紛争で何が起きているのか

アフリカ・セミナーの会

仙台国際センター研修室

10:00～12:00

不要

700円

FAX 022-362-7907



JICA宮城デスクからのお知らせ

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています。)

TEL.022-275-5540 E-mail jicadpd-desk-miyagiken@jica.go.jp JICA東北ホームページ http://www.jica.go.jp/tohoku/

世界各国より、応援メッセージをいただいています。

東日本大震災を受けて、計100以上の国と地域から3,000件を越す被災地へのお見舞いメッセージが、JICAや宮城県国際交流協会(MIA)に寄せられています。世界中からの温かい励ましの声、復興への応援メッセージの一部を、MIAに掲示しています。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

※JICAへ寄せられたメッセージは、JICAホームページでも紹介しています。

●平成23年度JICAボランティア春募集の開始について

震災の影響で延期しておりました平成23年度JICAボランティア春募集について、5月2日(月)～6月13日(月)の期間で、応募受付を行うことにいたしました。今回、甚大な被害を受けた東北地方では説明会を実施する予定がありませんが、東北以外の地域では募集説明会を実施し、またJICA東北やJICA宮城デスクにて個別対応をいたしますので、JICAホームページにてご確認の上、お気軽にお問い合わせください。併せてJICAホームページの「バーチャル説明会」もご活用ください。

JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/>





このコーナーでは、MIA宮城県国際交流協会の最近の動きをお知らせいたします。
いずれの件も、お問い合わせは ☎022-275-3796 E-mail mia@k2.dion.ne.jp まで。お気軽にどうぞ。

MIAの被災状況と震災対応

3月11日(金)大地震発生時、MIAでは「MIA外国籍の子どもサポーター研修会」を開催していました。当日、約30名が出席されていましたが、幸い怪我もなく安全に避難していただくことができました。当日、「外国人の子ども・サポートの会」代表田所希衣子氏に講演いただいたいましたが、中断となりました。この場を借りてお詫び申し上げます。

MIA事務所は書棚やファックス、ロッカーなどが倒れ、資料や書籍が散乱し、事務机が1mほど動くなど足の踏み場もないような状態になりました。直後は電気や電話も全くの不通となり、上記研修会の参加者を見送った後、MIA職員も解散し帰宅となりましたが、すべての公共交通機関が止まり、一部帰宅ができなかった職員もおりました。

翌週、事務所の片付けもそこそこにすぐさま「みやぎ外国人相談センター」の拡大版(英語・中国語・ハングル・タガログ語・ポルトガル語・日本語6言語それぞれで専用の携帯電話を設置し、土日も含め9:00~20:00で相談に対応しました)のチラシを作成し、県、県災害ボランティアセンター、マスコミなどのルートを通じて告知しました。それと並行するかのよう、電話が復旧しつつあった3月15日ごろからMIAの固定電話や相談電話はひっきりなしに鳴るようになりました(3月中だけで相談の電話は1,000件を超えました)。特に中国語の電話が群を抜いて多かったのですが、これは沿海部で相当数の中国人研修生・実習生が水産加工業などに従事しており、その安否を問う電話が日本国内と中国本土から一時的に殺到したのも大きな要因でした。安否確認については、宮城県警と連携しこちらで聞き取った内容を県警に伝える流れを早い段階で確立しましたが、MIAのスタッフだけでは中国語の電話対応や書類作成が追いつかなくなり、災害時通訳ボランティア(3月19日から30日の間に延べ11人)に業務のお手伝いをしていただきました。安否確認以外では、原発の危険性を確認する相談(NHKテレビなどで同相談センターの電話番号が取り上げられ全国放送されたため、宮城県在住者にのみならず全国の外国人からの電話も多々ありました)、震災や原発の影響を恐れて帰国を希望する方の日本国内の交通状況の問い合わせ、また多くの国の大使館が自国民保護のためにバスを出すなどして帰国の援助をしていましたのでその取り次ぎも相当数ありました。

3月20日からはMIAで緊急通行車両を手配し、沿海部を中心に計19市町を巡回しました。各市町の災害対策本部、避難所、災害ボランティアセンターに上記「みやぎ外国人相談センター」拡大版のチラシを配

布し、広報をお願いするとともに、一方で、各地域の日本語講座、市町の国際交流協会、地域在住の海外出身のキーパーソンなどから外国人被災者の情報を収集し、避難所や自宅を訪問し、聞き取りを行いました。そのころには、県や各市町村などで避難所ごとの避難者一覧などをホームページに掲載されるようになっていましたので、できるだけ所在を確認したうえで避難所を訪問しましたが、空振りに終わることも少なくありませんでした。避難所は人の出入りが激しく、また混乱状態の中で行政もこまめな情報更新には限界があり、現実的には現場に赴き生の情報をそこで得ながら一つずつアナログ的に確認する以外に術がありませんでした。パスポートや外国人登録証を津波で失った場合の手続きなど外国人特有の問題もいくつかあり、そうした情報は各国大使館や入国管理局などと確認のうえ、被災外国人に提供していきましました。また、日本人・外国人の隔てなく受けられる各種行政サービスや民間の支援情報なども整理してお渡ししました。

この巡回の過程で深刻なケースにもいくつか直面しています。夫が津波で行方不明となり且つ家を失った方がいました。家族の遺体が見つかるも火葬の手配ができず途方に暮れている方もいました。震災を境に家族関係に決定的な亀裂が入りトラブルに発展しているケースもありました。そういった個々の問題については制度や行政サービスといった共通する要素と個別の対応とが必要になります。母語で話をしっかり聞き取った上で、行政、地域のサポーターそしてMIAという支援ネットワークをそれぞれ構築しつつサポートを行っています。

4月も半ばを過ぎると、相談の電話も件数としては落ち着いてきましたし、現場の状況や特に深刻なトラブルを抱えている人の把握もある程度はできてきました。しかし、すべてが解決したわけではありません。復旧、復興、生活再建には長い時間を要しますが、弁護士、行政書士、臨床心理士などの専門家も含め様々な方と連携しながら一つひとつのケースに寄り添い、サポートを継続していきます。

また、5月以降には地域の日本語教室などを単位としながら「東日本大震災を振り返る会」といった場を設け、経験や思いを共有し、今後についてみんなで考える会も企画しています。

MIAの通常業務も徐々に通常に戻りつつあります。日本語講座も約1か月遅れて5月9日から始まりました。図書資料室など施設利用も再開しましたので、ぜひご利用ください。



緊急通行車両「MIA号」は2500km以上走りました。



大地震直後のMIA事務所。



石巻市の被災現場で中国人親子からの聞き取り。

賛助会員募集

MIA(財)宮城県国際交流協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人の輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- **賛助会員の資格**
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- **賛助会員の区分と年会費**
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- **賛助会員の特典**
◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
◎「MIA多言語から版」(日・英・中・韓・葡)の定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加者の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引 (株)ジェイティービー 仙台支店 (株)ジェイティービー 東北石巻支店 東北海外旅行(株) 宮交観光サービス(株) (株)日本通運 仙台旅行センター
- **入会方法**
◎本協会あて御連絡ください。
◎所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.55

編集・発行 財団法人 宮城県国際交流協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mia@k2.dion.ne.jp URL http://www.h5.dion.ne.jp/mia